

令和 6 年度 学校経営環境分析書

片山中学校区 校番 17 学校名 呉市立荘山田小学校

1 学校の内外環境の分析

外部環境	O (支援的要因) 【国】 ①育成を目指す資質・能力が新学習指導要領に示されている。 ②一人一台タブレット支給されている。 【県】 ③「広島で学んで良かったと思える日本一の教育県の実現」に向けての取組が各地域・各校で推進されている。 【市】 ④小中一貫教育が全市的に定着し、研究推進の方向性ができている。 ⑤「郷土を愛する心豊かでたくましい児童生徒の育成」を目指し、児童生徒・学校・地域が一体となった教育活動を推進している。 ⑥キュビナ・ロイノートスクールのアプリを市で採用し、取り組む機会が保障されている。 ⑦サポートスタッフが充実している。 【学校】 ⑧算数の数量を養う環境整備がされている。 【地域】 ⑨学校を支援したいと思っている地域の人がいる。	S (強み) 【学校】 ①中規模校であるため集団生活を通して学ぶ機会がある。 ②学習規律・生活規律を徹底する、校長を中心とした組織的な指導体制が確立されている。 ③小中一貫での取組ができている。 ④タブレットを使用することにより、学習意欲が高まっている。 ⑤積み上げタイムが継続して行われている。 ⑥学年で協力する体勢があり、決まったことは取り組もうとする教員が多い。 ⑦スリッパ揃えの習慣ができつつある。 ⑧読書の習慣が付きつつある。 【児童】 ⑨夏休み作品応募や科学研究等、挑戦しようとする意欲的な児童が多い。 【家庭】 ⑩行事や参観日等の出席率が高い。 【地域】 ⑪地域と密な連携が図られ、理解・支援を得ることができる。	支援的要因と強みを生かした活動・取組は ○資質・能力の育成を目指す小中一貫教育 - 授業及び指導方法の改善を推進(O①③④⑧,S③) ○学び合いの充実 - タブレットを有効に活用した授業改善・学力対策(O②⑥,S①④) - 積み上げタイムの内容の工夫。(S①⑥) - チームで若手教員の指導向上を目指す組織の工夫。(S②⑥) ○小中・地域の協働活動 - 地域と一体となった教育活動の推進(O⑤⑨,S⑩⑪)
	T (阻害的要因) 【学校】 ①コロナ禍の影響で友達との関わりが苦手な児童がいる。 ②1クラスの人数が多い学級があり、指導の目が届きにくい。 ③運動場が狭く、全学年がボール運動をするのが危険な状況がある。 【地域】 ④沿いに民家が広がり、大雨時に川の水があふれやすい等、土砂災害による被害の危険性がある。 ⑤交通量の多い道路や坂道があり、交通事故の危険性が高い。 ⑥コロナ禍で学校と地域の交流の機会が減少していたが、徐々に元に戻りつつある。 ⑦学校教育に対する理解が難しい地域の人がいる。	W (弱み) 【児童】 ①学力面や体力面に課題がある児童がおり、個別の支援を要する。 ②聞く力は付きつつあるが、相手に伝えようとする力が弱い。 ③不登校児童や行きしぶり児童、フリースペース利用児童が増加している。基本的生活習慣が身に付いていない児童がいる。 ④安全面において適切な状況判断ができにくい。 ⑤あいさつ等、礼儀が身に付いていなかったり、規範意識がうすかったりする児童もいる。 ⑥放課後の過ごし方の徹底。(落書き・危険な場所に行く・お菓子を食べる等の事案あり。) ⑦情報モラル等、タブレットの使い方が守れない児童がいる。 【家庭】 ⑧一部、基本的生活習慣を整えるための協力を得にくかったり、学校教育に無関心だったりする家庭がある。 ⑨PTAの組織の活動が、人が減り、難しくなっている。 【教員】 ⑩教職経験の不足の教員が多い。	内部環境 ○学力向上対策 - 積み上げタイムやキュビナを活用した個に応じた指導の工夫(W①②) - 双方向の学び合いの授業の工夫を図る。(T①W①②) - 話す・聞く・書く力を育てる授業(W②) - 司書教諭を活用した読書活動の充実を図る。 ○積極的な生徒指導の実施 - 礼儀正しく過ごすための取組(T①W⑤) - 保護者啓発を含むSNSの授業参観の実施(W⑦) - 授業中のタブレットのルール、情報モラルの指導。(W⑦) - 家庭との連携を蜜にし、保護者の協力を促す。(T⑤⑥⑦W⑨) - SCやSSW等の外部とつなぎ、サポート体制を整える。(W③) 5分会議による教職員による密な連携(W③④⑤⑥) ○安全・健康教育の充実 - ラダー運動・サーキット運動やくれチャレンジマッチへの取組(W①) - 防災教育のさらなる充実と交通安全に関する指導の徹底(T④⑤W④)

2 重点課題

弱みを克服し、阻害的要因を回避する解決策は

- 基礎学力の定着を図る取組をさらに充実させる。(タブレットドリル・積み上げタイム)
- 身に付けた知識や技能を活用し、「思考力・判断力・表現力」の育成を図る授業づくりや指導方法の工夫に取り組む。
- 「かかわり合い」の中で自分や友達のよさに気づき、自己肯定感を高めると共に、相手を思いやる態度を育てる。
- 地域との効果的な連携・交流のあり方を工夫しつつ、地域と関わる機会を増やし、郷土愛を育てる。
- 防災についての指導機会を生かして、児童の防災に対する意識を高め、自分の命は自分で守ろうとする児童の割合を高める。
- 走る環境を整備し、走力が県平均を上回る学年を増やすようにする。
- 働き方の見直しと改善により、日々の業務の中で充実感を得られていると感じる教職員や時間外勤務時間が月 45 時間を超えない教職員を増やす。